



エコアクション21

環境活動レポート

(取組期間： 2021年5月～2022年4月)

2022年9月

有限会社 柳井コレクト・サービス

改 訂
令和 4年 9月 30日
印

～目次～

1. 会社概要
2. 環境方針
3. 組織図・役割
4. 事業内容・許可内容
5. 施設
6. 処理実績・料金
7. 環境負荷の状況
8. 環境目標並びに取り組みの結果
9. 主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価
10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
11. 全体の評価と見直し
12. 中期環境目標



環境経営方針

理 念

山に囲まれ、漁業資源豊富な瀬戸内海に面した場所で、廃棄物の処理業を営む 有限会社 柳井コレクト・サービス は、地球の環境保全を適切に推進するために、エコアクション21に基づく環境経営システムを確立し、地域社会に貢献できる事業を行政機関と連携して、取り組めます。

行動指針

1. 環境経営に積極的に取り組み、社内電力、化石燃料、上水の使用を抑え、環境負荷の低減と無駄な経費の出費の削減に取り組めます。
2. 環境への取組みとして、特に次の事項に取り組めます。
 - ① 地球温暖化防止のための行動として、節電、エコドライブ、節水、紙類の削減をし、経費削減に努めます。
 - ② 廃棄物削減とリサイクル化を促進し利益を向上させるように努めます。
 - ③ 積極的にグリーン購入の推進に努めます。
 - ④ 整理・整頓・清潔・清掃・しつけを全社員が取り組み、環境経営を向上させるよう努めます。
 - ⑤ 会社周辺及び地域の美化に積極的に全社員で取組み、地域に貢献できるよう努めます。
3. 環境に関する法律・規則、交通規則を遵守します。
4. 環境経営システムの内容を、全社員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

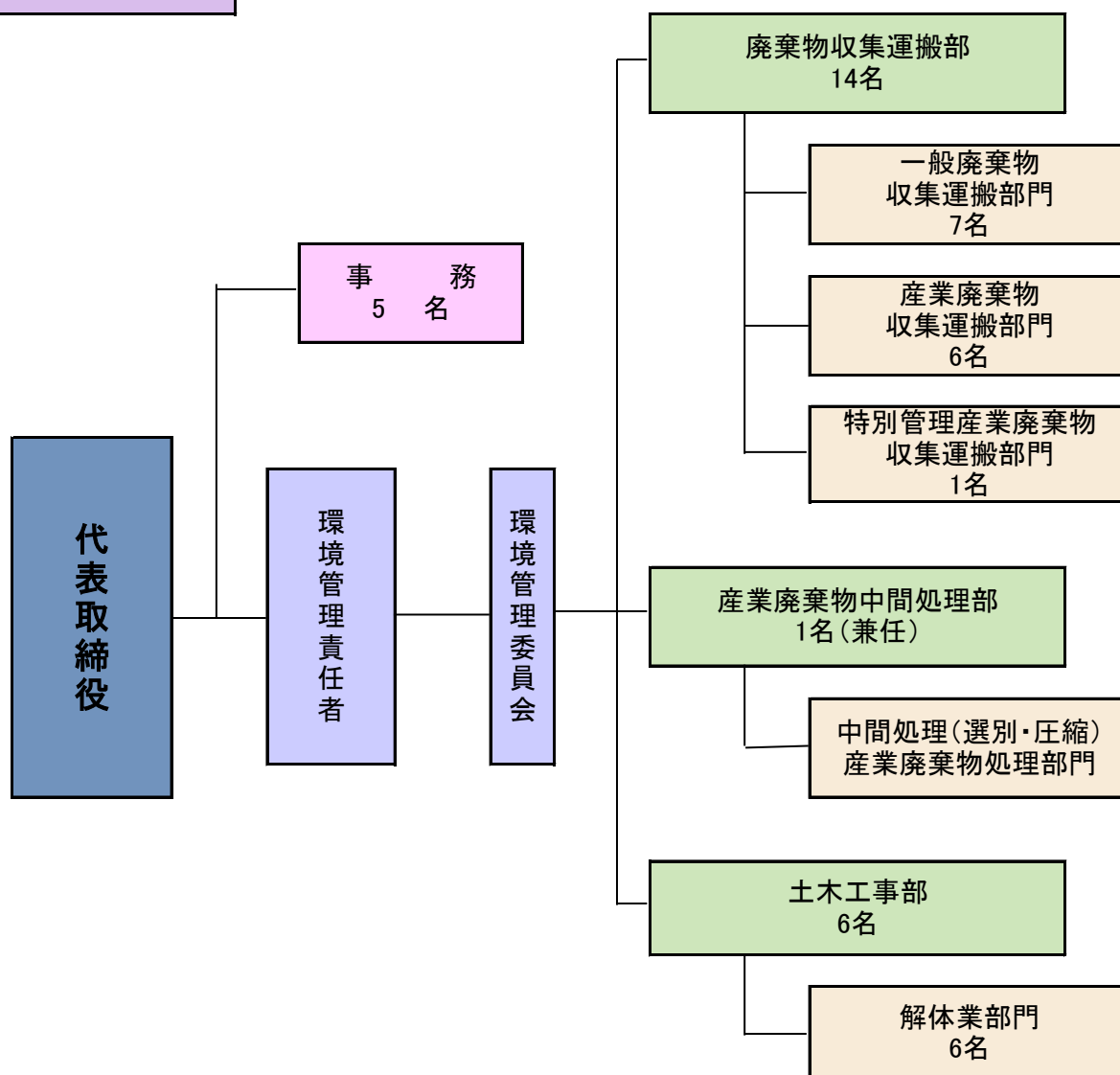
2009年6月9日

有限会社 柳井コレクト・サービス
取締役 逢坂 日出夫

最終改訂

2016年4月1日

■ 組織図
■ 管理体制



環境経営システムに関する役割・責任・権限	
役職	役割・責任・権限
代表取締役	全体統括・環境方針及び環境目標設定・全体の評価と見直し 資金の用意・実施体制の構築
環境管理責任者	環境経営システムの構築・実施・管理・代表者への報告 各部門担当者との連絡 環境目標達成の為の施策・訓練・教育計画の作成
各部門担当者	環境目標達成の為の計画の実施の責任者 従業員への周知
事務局	全体事務・文書作成・データ管理

■ 事業内容

- ※一般廃棄物収集運搬業
- ※産業廃棄物収集運搬業
- ※特別管理産業廃棄物収集運搬業
- ※産業廃棄物処理業(中間処理)
- ※建設業(とび・土工工事業 土木工事業 解体工事業)

■ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 有限会社 柳井コレクターサービス
 事務所 山口県柳井市南浜4丁目1番23号
 活動 一般廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物収集運搬業
 特別管理産業廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物処理業(中間処理)
 建設業(とび・土工工事業 土木工事業 解体工事業)

■ 許可内容

《 一般廃棄物収集運搬業 》

許可番号	指令柳生環第8号	許可年月日	令和4年3月16日
		許可の有効年月日	令和6年3月31日
事業の範囲	一般廃棄物	事業の区域	柳井市全域
事業計画	柳井市内全域の一般廃棄物を収集し、焼却場と不燃物処理場に、それぞれ運搬する。		

《 産業廃棄物収集運搬業 》

許可番号	第 03512003846 号	許可年月日	平成30年9月20日
		許可の有効年月日	令和7年9月19日
事業の範囲	産業廃棄物の種類 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、動植物性残渣、銹さい、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類、ばいじん(これらは、石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等であるものを含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上16種類 事業の区分 積替え又は保管を含む		
事業計画	主に、建設現場・工場などから排出される産業廃棄物を収集し、処分場に搬入する。		

《 特別管理産業廃棄物収集運搬業 》

許可番号	第 03562003846 号	許可年月日	令和4年6月23日
		許可の有効年月日	令和11年6月22日
事業の範囲	特別管理産業廃棄物の種類 廃油、廃酸、廃アルカリ、感染性廃棄物、廃石綿等、燃え殻、汚泥、ばいじん以上8種類 事業の区分 積替え又は保管を含む		
事業計画	主に、医療機関から排出される特別管理産業廃棄物を収集し、処分場に搬入する。		

《 産業廃棄物処分業 》

許可番号	第 03522003846 号	許可年月日	平成30年12月 1日
		許可の有効年月日	令和5年11月30日
事業の範囲	事業の区分 中間処理(圧縮、選別) 産業廃棄物の種類 圧縮： 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、紙くず、木くず、繊維くず 以上6種類 選別： 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、紙くず、木くず、繊維くず、がれき類 以上7種類		
事業計画	解体現場や工事現場から発生した廃棄物の処理を受託し、選別及び圧縮処理を行いリサイクル業者や中間処理業者、最終処分業者へ搬入する。		

《 建設業 》

許可番号	般—30 第 17632 号	許可年月日	平成30年 8月28日
		許可の有効年月日	令和 5年 8月27日
事業の範囲	とび・土工工事業 ・土木工事業 ・解体工事業		

■ 施設

《 運搬車両 》

車両の種類	台数	車両の種類	台数
集塵車	4t車 2台	脱着式コンテナ車	10t車 1台
	3t車 5台		8t車 1台
	2t車 2台		4t車 2台
ダンプ	10t車 1台		3t車 5台
	4t車 1台		5.5t車 1台
	3t車 1台	2t車 1台	
	2t車 1台	ユニック車	
軽ダンプ・軽トラック車	3台	ドライバン	3t車 1台
		1t車 1台	
軽バン	3台	リフト	2.5t 1台
		バックフォア	3.0t 1台
			0.25 2台
			0.20 3台

《 積替保管施設 》

所在地 山口県柳井市南浜四丁目675番地5

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、ゴムくず、がれき類(これらは、石綿含有産業廃棄物であるものを含み、水銀特別管理産業廃棄物、水銀含有ばいじん等及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上5種類
面積	460.3m ²
保管上限	488.35m ³
積み上げ高さ	3.1m

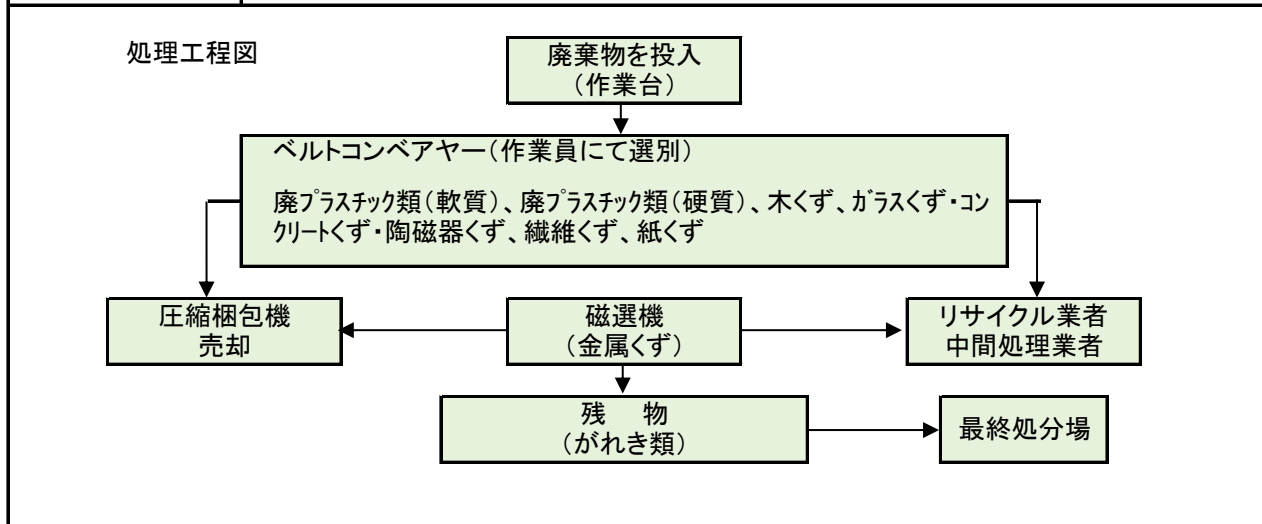
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず・繊維くず、ばいじん(これらは、水銀特別管理産業廃棄物、水銀含有ばいじん等であるものを含み、石綿含有産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上12種類
面積	130m ²
保管上限	19.34474m ³
積み上げ高さ	屋内にて保管を行う

特別管理産業廃棄物の種類	廃油、廃酸、廃アルカリ、廃石綿等、燃え殻、汚泥、ばいじん 以上7種類
面積	21.6m ²
保管上限	43.2m ³
積み上げ高さ	2m

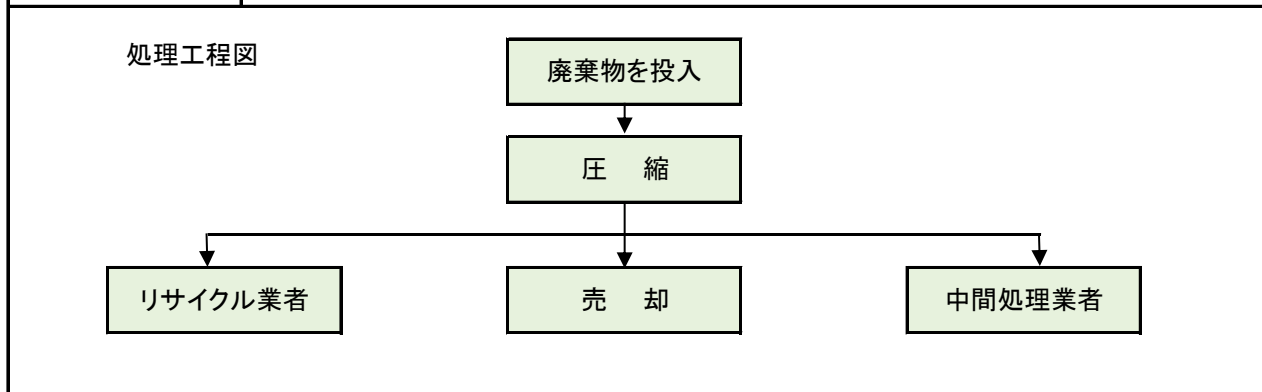
特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物
面積	12.96m ²
保管上限	30m ³
積み上げ高さ	2.36m

《 処理施設 》

種類	中間処理(選別)
廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず、がれき類
施設	ベルトコンベヤー
処理方法	作業テーブルよりベルトコンベヤーに進み選別
処理能力	15.08t/日(8時間)

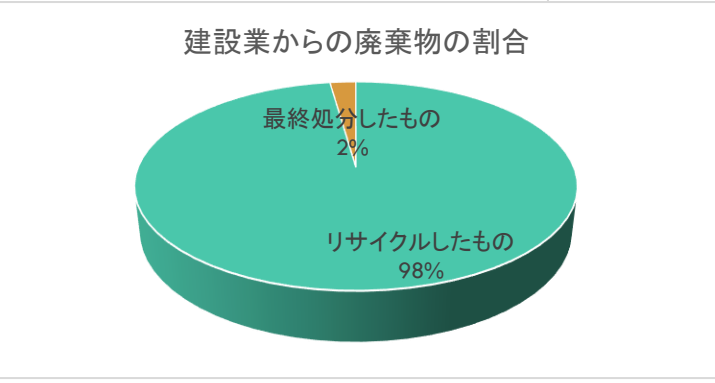
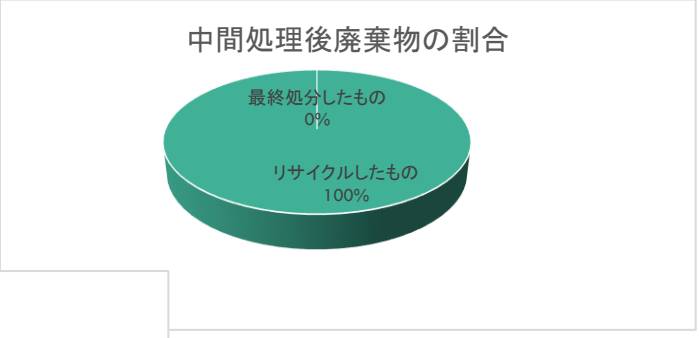
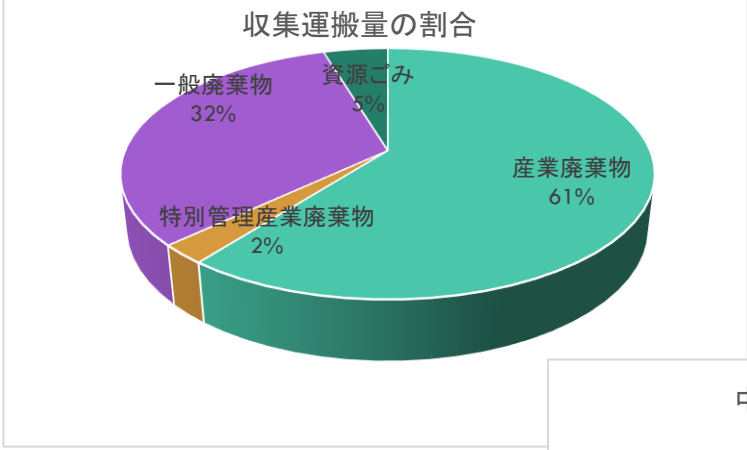


種類	中間処理(圧縮)
廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず、がれき類
施設	縦型圧縮梱包機
処理方法	プレッシャーによりプレス盤が下がり圧縮
処理能力	4.95t/日(8時間)



■ 処理実績

受託した廃棄物の収集運搬量 12,226.82 t	産業廃棄物収集運搬量	7,401.09 t
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	303.73 t
	一般廃棄物収集運搬量	3,954.00 t
	資源ごみ	568 t
受託した廃棄物の中間処理量 92.42 t	受託した廃棄物のリサイクル量	92.41 t
	受託した廃棄物のリサイクル率	99.99 %
建設業からの廃棄物の排出量 4,532.60 t	排出した廃棄物のリサイクル量	4,430.37 t
	排出した廃棄物のリサイクル率	97.74 %



■ 処理料金

※ 収集運搬料金
※ 処分料金

- ・・・ 運搬距離・廃棄物の種類等により異なるので、見積による。
- ・・・ 距離・量などにより異なるため、見積による。
- ・・・ 廃棄物の種類等により異なる。
- ・・・ 別途見積りによる。

(1)環境負荷の状況

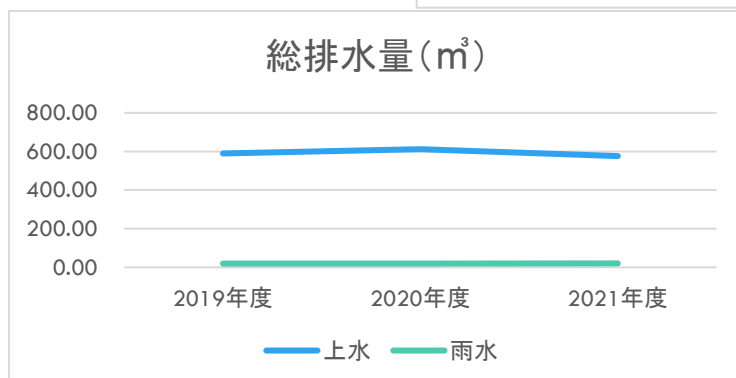
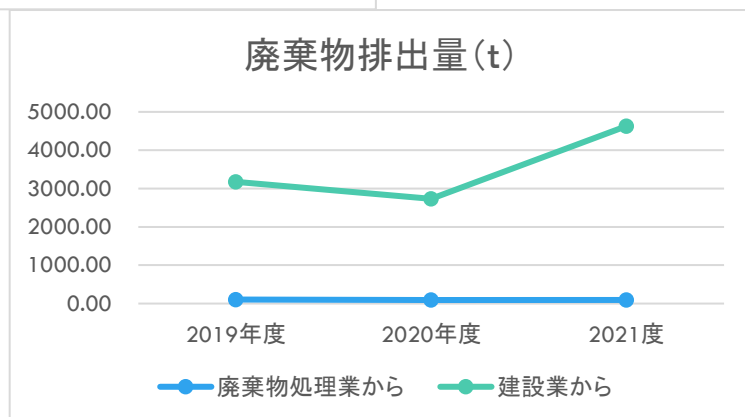
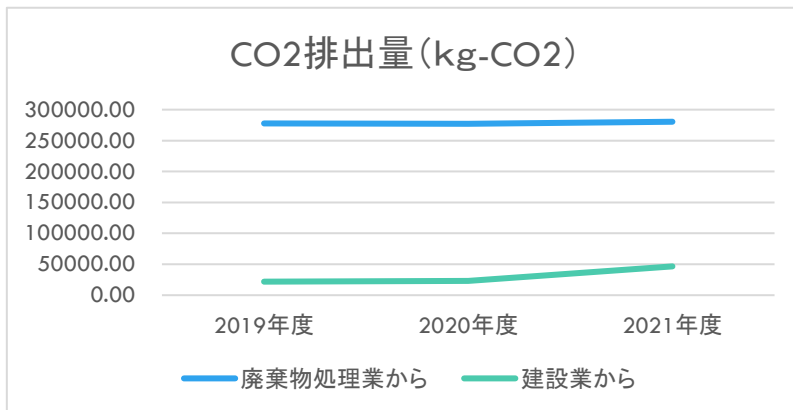
当社の事業活動に伴う過去3年間の環境負荷の状況は、以下の通りである。

年 度	単 位	2019年度	2020年度	2021年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2	299,595.29	300,467.70	326,991.24
購入電力量	kg-CO2	16,325.02	14,765.41	13,569.97
軽油・ガソリン 二酸化炭素排出量 (収集運搬)	kg-CO2	261,093.57	261,394.47	265,880.46
収集運搬(1tあたり)	kg-CO2/t	21.96	24.22	21.74
建設業 二酸化炭素排出量 (建設業)	kg-CO2	21,929.48	23,372.22	46,571.58
建設業(百万円あたり)	kg-CO2/百万円	117.90	123.67	164.56
その他化石燃料	kg-CO2	247.23	935.61	969.21
廃棄物排出量	t	3,172.82	2,732.09	4,626.24
一般廃棄物	t	1.30	1.23	1.26
産業廃棄物	t	3,171.52	2,730.86	4,624.98
総排水量	m ³	608.50	632.00	596.50

※ 軽油・ガソリンは収集運搬量で数値が変わるので、収集運搬量(kg-CO2/t)に対しての数値と実質数値の両方で比較することとする。

※ 2021年度購入電力量に対する調整後排出係数(0.000521-CO2/kwh)は2020年度のものを用いている。

※ 産業廃棄物排出量には当社にて中間処理し処分場に排出した物も含まれる。



(2) 中期環境目標

① 二酸化炭素排出量:売上または収集運搬量に対しての排出量で比較する。

購入電力:2016年を基準として増加させない。

ガソリン・軽油:収集運搬量で数値が変わるので、収集運搬量(kg-CO2/t)(2018年～2020年の平均を基準)に対しての数値で比較するものとする。また重機に使用する軽油に関しては建設業からの排出と考え売上百万円あたりの数値で比較するものとする。

新しく取り付ける場合はLED照明等の省エネルギーのものを購入する。

車両の買い替えの際は低排出ガス・低燃費のものを導入する。

ガス使用量:2010年度～2019年度平均値より+10%以内(新型コロナ感染対策手洗い推奨の為)

灯油使用量:2016年度を基準とし増加させない。

② 廃棄物のリサイクル率の向上

解体からの廃棄物のリサイクル率は95%以上中間処理のリサイクル率は90%以上を目標とする。

③ リサイクルの促進

収集してきた廃棄物の分別を行う。

(ビン・缶・ペットボトル・紙類・ビニール類・ビニール紐 等々)

④ 水使用量

上水利用は2010年度～2019年度平均値より+10%以内(新型コロナ感染対策手洗い推奨の為)

雨水利用を2016年度実績から毎年3%づつの増加を目指す。

⑤ 紙使用量の削減。

メールによるコミュニケーションを増やし紙の使用を削減する。

ミスコピーした紙は廃棄せず裏紙やメモ用紙として再利用する。また両面使用したものは焼却せずにリサイクルする。

⑥ 会社周辺及び美化活動に取り組む。

毎月平日の最終営業日に会社周辺の清掃活動を行なう。

項目	基準値	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標	単位
二酸化炭素排出量	556.25	556.25	556.25	556.25	kg-CO2/百万円
購入電力	29954	29954	29954	29954	kwh
ガソリン・軽油(収集運搬)	21.58	21.58	21.58	21.58	kg-CO2/t
ガソリン・軽油(建設業)	344.87	344.87	344.87	344.87	kg-CO2/百万円
灯油・ガス	1507.65	1507.65	1507.65	1507.65	kg-CO2
中間処理 リサイクル率	90	90	90	90	%
解体排出物の リサイクル率	95	95	95	95	%
上水の利用	768.00	768.00	768.00	768.00	m ³
雨水の利用	14.40	16.07	16.55	17.00	
美化活動	12	12	12	12	回

(3) 環境目標及び実績並びに取組結果

事務所からの廃棄物排出量は2016年度を基準として横ばいに、水使用量は上水利用をコロナウイルス対策として2010年度～2019年度平均値より+10%以内、雨水使用量を2016年度実績を基準とし毎年3%増加することを目指した。取組結果は以下のとおりである。

項目	基準値	2021年度 目標	2021年度 実績	単位	取組結果
二酸化炭素排出量	556.25	556.25	427.99	kg-CO2/百万円	○
購入電力	20,877.94	20,877.94	13,569.97	kg-CO2	○
ガソリン 軽油 ・ リ ン ・ 集 集 運 搬 (1 t あ た り)	21.58	21.58	21.74	kg-CO2/t	×
解体(百万円 あたり)	344.87	344.87	164.56	kg-CO2/百万円	○
灯油・ガス	1,507.65	1,507.65	969.21	kg-CO2	○
廃棄物排出量	—	—	4,626.34	t	—
一廃 リ ン ・ 焼 却 ・ 最 終 処 分	0.79	0.79	0.80	t	—
リサイクル	0.49	0.49	0.46	t	—
リサイクル率	62.00	62.00	63.00	%	—
産廃 解 体	—	—	4,532.66	t	○
リサイクル率	97.00	97.00	97.70	%	○
中間処理	—	—	92.42	t	○
リサイクル率	92.00	92.00	99.00	%	○
上水使用量	768.00	768.00	576.00	m ³	○
雨水使用量	14.40	15.60	20.50	m ³	○
美化活動	12.00	12.00	12.00	回	○

※ 2021年度購入電力量に対する排出係数は2020年度調整後排出係数(0.000521t-CO2/kwh)を適用している。

※ 軽油・ガソリンは収集運搬量で数値が変わるので、収集運搬量(kg-CO2/t)に対しての数値と解体百万円当たりの排出量で比較することとする。

請求書管理ソフトの導入



※ インボイス制度・電子帳簿保存法の開始に伴いシステムを導入した。

アルコールチェックシステムの導入



※ 運転前後のアルコールチェックの義務化に伴いシステムを導入した。

(4) 主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

項目	環境活動計画	目標	実績	取組結果	取り組みの評価
二酸化炭素排出量の削減	電気エネルギー量の削減 ・室内空調は、夏季は28℃±1℃、冬季は20℃±1℃の設定とする。 ・OA機器は使用時以外電源を切る。 ・休憩室・トイレ等の照明は、使用時以外は消灯する。	20877.94 kg-CO2	13569.97 kg-CO2	○	エアコンの設定温度は気温を確認しながら変動させている。また、エアコンは定期的にクリーニングフィルターも清掃するよう心掛けている。サーキュレーターを併用し空気の循環を心掛けている。猛暑によりエアコン等の使用が増加したとともに空調服のバッテリー充電もあり前年より使用量は増加しているが、目標は達成できている。
		29954.00 kwh	26046.00 kwh	○	
	化石燃料の削減 軽油・ガソリンの削減 ・全車エコドライブの実施 ・車両の入替の場合は、低公害車に順次変更する。	収集運搬1t当りの排出量 21.58 kg-CO2/t	収集運搬1t当りの排出量 21.74 kg-CO2/t	×	収集運搬については最適なルートを選択し、エコドライブを心掛けている。遠方の現場の増加と、新型コロナ廃棄物増加の為処分場への搬入回数が増えたことなどが原因と考えられるが、今回はわずかに目標に届かなかった。
		解体百万円当りの排出量 344.87 kg-CO2/百万円	解体百万円当りの排出量 164.56 kg-CO2/百万円	○	
	ガス使用量の削減 ・必要以外はこまめに切る。	302.58 kg-CO2	262.05 kg-CO2	○	冬季のガス使用量は増加したが、夏季の使用量が少なかったため目標は達成できている。
	灯油使用量の削減 ・ストーブ等の暖房機器は必要時以外は消す。	1303.28 kg-CO2	707.16 kg-CO2	○	石油ストーブは消し忘れに注意して安全に使用できている。
廃棄物排出量の削減	・産業廃棄物は分別を徹底し、リサイクル化に努める。 ・事務所廃棄物は分別、減量化、再資源化に努める。	解体リサイクル率 97%	解体リサイクル率 99%	○	解体工事で排出された廃棄物は全て分別リサイクルし再資源化に努めている。 可燃ごみ以外のものは全てリサイクルできてきている。
		事務所廃棄物総合計 1.39t	事務所廃棄物総合計 1.26t	○	
上水使用量の削減	・蛇口の閉め忘れのないようにする。 ・必要以上に水を使用しないよう、節水に努める。 ・車の洗車や清掃をする場合は、手元で開閉できるノズルを使用する。	上水 768m ³	上水 576m ³	○	事業所全体で節水の取り組みができています。 缶・ビン選別後の機械・選別場の清掃には、雨水を優先的に使用できている。
		雨水 15.6m ³	雨水 20.5m ³	○	
紙使用量の削減	・可能な限りメールによるコミュニケーションにより紙の使用量を最小限とする。 ・可能なものは、両面コピーを基本とする。 ・資料・契約書等の1ページ化。 ・毎月1回紙使用量を確認する。	メールによるコミュニケーションは着実に増加している。引き続き取り組んでいきたい。 ミスコピーや通知FAXなどは廃棄せず、裏紙やメモ用紙として使用している。			
地域の美化活動 会社周辺及び	・会社周辺の清掃活動を行う。 ・排水枡の清掃(年2回)	業務が早く終了した時等は、自発的に会社周辺の清掃を行っている。 月1回の会社周辺の美化活動にも取り組むことができた。 定期的に排水枡の清掃を行っている。			

(5) 来年度の環境活動計画
来年度も継続し実施する。

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

今年度、環境関連法規(建設リサイクル法、廃棄物処理法)等への違反、訴訟等は無かった。

全体の評価と見直し

※昨年設置した社内作業場及び積替保管施設の屋根が期待どおり、熱中症対策など労働環境の改善に対し機能していると考えている。

また、制服(作業着)を動きやすく、機能性の良いものに変更し、更に、空調服の支給をし熱中症対策を強化した。作業効率のアップやモチベーション向上に期待する。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響は昨年同様であり、一般廃棄物の収集運搬量は以前と比較すると減少していると感じられる。

近隣の市町村でも新型コロナ感染者が増加し、医療廃棄物の収集運搬の回数や処分場への搬入の回数が増えている。そのため燃料の使用量が増加し、収集1t当たりのCO2排出量は増加していると考えられる。

※今問題になっている、飲酒運転・酒気帯び運転を事前に防ぐ、また、アルコールチェックの義務化の為、アルコール検知器のシステムを導入した。

仕事への信頼性や従業員の健康状態も含め意識改革ができればと思っている。

代表取締役 逢坂 日出夫